

**博士論文の審査結果の要旨**

専攻	保健医療学専攻	分野	看護学分野
学籍番号		院生氏名	渡邊さつき
通学キャンパス			
論文題目	妊婦の震災に備える力を高める教育プログラムの開発と評価		
審査結果 (枠で囲む)	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">合格</div> <span style="margin-left: 100px;">不合格</span>		
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p>1. 1) 本研究は、「震災による妊婦の健康被害を最小限にするために、緊急地震速報を利用して震災に備える力を高める教育プログラムを開発し、評価する」ことを目的とした。対象は妊娠中期の妊婦とし、介入群の妊婦 35 名、対照群の妊婦 37 名に協力を得た。教育プログラムは、妊婦の震災に備える力を高める教育プログラムをインストラクショナルデザインの ADDIE モデルの枠組みで開発し実施した。教育プログラムを教育目標別と学習者の視点で効果について Mann-Whitney -U 検定と <math>\chi^2</math> 検定にて分析した。その結果、介入群と対照群の妊婦の間で、メイン評価指標の『震災への備えに関する知識と行動』20 項目の合計と『生活の場での安全確認の実施状況』の合計で有意な差となった。介入群の妊婦は、震災に備えることへの役割や自助の認識にともなった備えの知識や意識変容に関する 5 項目、行動変容に関する内容 3 項目が有意に高くなった。教育プログラムは、①過去の大震災における妊婦の状況を理解し、緊急地震速報後にとる避難行動を習得する、②受援力の価値づけを学ぶという視点で有用であることが示唆された。</p> <p>2) 本研究は、国際医療福祉大学研究倫理審査委員会及び日本赤十字豊田看護大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。妊婦の動作能力や・過去の大地震映像による心理的影響に配慮しており問題はなかった。また本研究は、研究目的に沿う教育プログラムを開発し、介入研究を実施し、その効果を量的解析により検証しており、結果及び考察の論理的な一貫性が認められたので合格とした。</p> <p>3) 本研究は、新潟県中越沖地震や東日本大震災に遭遇した妊婦の避難行動と、震災時の妊婦のニーズを取り入れた教育プログラムを開発しており、特に震災時の妊婦の自助の認識や受援力に着目した点に新規性がある。巨大地震が想定される昨今において、妊婦への教育に貢献する研究として高く評価できる。</p> <p>2. 初回審査 (平成 29 年 11 月 28 日) は、下記 3 名の委員により、論文審査と発表を基に口頭試問を行った。諮問に対する回答は適切であったが、修正箇所が散在していたため、書類諮問による審査を追加することとした。</p> <p>3. 書類試問は 2 回開催した。研究概念図の示し方、用語の修正、関連団体の教育プログラムとの比較、図表の示し方、字体や文字の大きさ、誤字脱字について論文の修正を求めたところ、適切に回答した。指定した平成 30 年 1 月 15 日までに提出された加筆論文は、十分な回答であると判断し最終合格とした。</p> <p>4. 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士 (看護学) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	堀金 幸栄	
	副 査	黒澤 和生	
	副 査	堀本 ゆかり	